

第8回 岡山市子供海外派遣研修

今回の研修は、中国・洛陽市、韓国・富川市、台湾・新竹市の3都市に岡山市内の中学2年生と3年生を派遣しました。派遣された生徒達は、派遣先で一般家庭にホームステイし、現地の学校を訪問するなど交流を深め、異文化に触れて国際的視野を広めました。



派遣先：洛陽市（中国）
派遣人数：16名
派遣期間：平成13年7月27日
～8月9日



万里の長城でバンザイ



派遣先：富川市（韓国）
派遣人数：14名
派遣期間：平成13年7月27日
～8月6日



景福宮を参観



派遣先：新竹市（台湾）
派遣人数：11名
派遣期間：平成13年7月27日
～8月7日



孔子廟の参観



故宮での記念撮影



テコンドーの体験学習



小人国の観光



ホームステイのママとの別れ



富川市陸上競技場を見学



新竹市立香山高級中学へ訪問

岡山市・富川市 職員相互派遣

平成12年4月14日に韓国富川市長が来岡された際に、締結された職員相互派遣協定に基づき、この度、第2回目の市職員を岡山市・富川市各1名ずつ相互に派遣しました。

岡山市派遣職員

氏名 三木 日出夫(みき ひでお)
所属 岡山市 都市計画課
派遣期間 平成13年11月1日～平成13年12月28日
研修分野 富川市の都市計画及び行政全般

富川市派遣職員

氏名 高 蘭英(ゴ・ナンヨン)
所属 富川市 下水課
受入期間 平成13年11月12日～平成14年2月9日
研修分野 岡山市の主要施設、環境、上・下水道関係等について

三木 日出夫

韓国富川市での研修を終えての心境は、「日本で過ごす4年間分以上の経験と成果を僅か40日で体験できた。」と、思わせるほど濃厚、かつ大きな成果をひしひしと感じています。これは正に、いわゆる「カルチャーショック」でしょうか。富川市での体験は、見るもの、聞くものの全てが驚きと感動でした。また、「日本の常識は、世界の非常識」や「井の中の蛙、大海を知らず。」を経験し、自分の無知と無能を思い知らされました。実際に、韓国に対する認識と甘い考えを反省しました。実は、12年前の海外研修(21日間、北欧など4カ国)経験や6年前に中国(洛陽と北京 6泊7日の旅)の海外経験があり、自信を持って日本を旅立ちました。しかし、最初の当惑は、日本語も英語も全く通じないことでありました。これは、ハンガルの勉強を僅か3ヶ月しかしておらず、簡単な挨拶程度の会話力で臨んだ冒険であったからでした。幸いに、日本に詳しい通訳の人が付いていたので、研修中は言葉に不自由しませんでした。しかし、下宿へ帰った後や土・日曜日は通訳がいなくて、さすがに苦勞しました。買い物は、レジなどでお金を払うだけなので、不自由はしませんでした。富川市で最初に感じたことは、英語の語学力の必要性でした。これは、市役所でインターネットや電子メールなどパソコンを使う時に直面しました。日本語入力ができないので、やむを得ずローマ字(韓国ではハンガルか英語入力のソフト)で入力する方法しかありませんでした。次に感じたことは、日本の歴史、文化、及び現在の日本の状況(特に、東京の情報)についての知識の必要性でした。韓国人は、インターネット等で日本についての情報に詳しく、例えば「日本のNT(ナノテクノロジー)産業はどこまで進んでいますか?」、「日本の市役所での建築士の行政の立場として、その役割を教えてください。」など質問を受け、自分の無知を恥じました。この40日間で、韓国人の活力と合理的な考え方を学び、また家庭を大事にする「儒教精神」に感動しました。さらに、富川市の地理的な優位性(日本と中国に非常に近い)と経済の優位性(ソウルの経済圏は2千万人)を知り、将来性のある都市だと感じました。

高 蘭英

月日がたつのは本当にはやいですが、ただ私がか来岡するため忙しかった時は大昔の事のように思われるのは他国での寒い時期を過ごす辛さと母国の懐かしさが混ぜられた複雑な思いのせいかも知れません。今回の来日が初めてじゃなかった私には来る前は大きな心配は有りませんでした。最初はそうでもなかった気がします。私にとって何も知らない岡山と言う所は外の外国と同じようでした。今年の富川(プチョン)市と岡山市との職員相互派遣が二回目ですが一回目の人が市役所をやめたので情報もぜんぜんなく、しかも岡山のなまりとか方言もあって最初は慣れにくかったです。そして日本の冬の寒い家は寒がりの私には苦手でした。確かに韓国の寒さは日本に比べてもっと寒いですが家の中は暖かいです。それが韓国の「オンドル」文化です。でも今はなまりにも大分慣れてきたし乗れなかった自転車にも乗れるようになりました。私は化学職で環境とか下水とか水道水関係の仕事をやってきました。ここでも岡山市のそういうことについて研修をしました。環境に配慮した政策とか地域の特性を考えたいろんな水処理の取り組みは、これから韓国も規準が厳しくなり、高度処理をしなければならないようになるので 本当にいい勉強になりました。そして水道局の組織は市の組織と関係ないみたいな感じがして特別だと思いました。でも民間の会社員のような精神は韓国の富川(プチョン)市も岡山市ももっともっと必要だと思います。それで自然に恵まれた岡山市がうらやましいです。これからも自然環境を沢山残し、生かして行くべきだと思います。少し残念だと思うのは研修員という立場のため韓国のこととかプチョンのことを伝えられなかった事とせっかく日本に来たのに色々な土地へあしをのばせなかったことです。一番思い出になったのはホームステイで知り合った源通さんという人とその人の仲間と韓国のキムチと家庭料理作り会とか日本の家庭でよく食べる手巻き寿司作り会を持ち、いろんな話ができたことと職員クラブの茶道部に入らせていただき、3回だけですが少しでも日本の伝統を味わえることです。最初は苦くて飲みにくかったし正座で膝が痛かったんですが今は薄い煎茶より好きになりました。とても楽しかったです。最後に、長くも短くもない3ヶ月間、忙しいところ私の世話をしていただいた国際課のみなさんをはじめ、私に一生懸命に教えていただいた研修担当の方々に心からお礼を申し上げます。皆さん本当にありがとうございました。そして、ぜひ韓国にもいらっしゃって下さい。



◀富川市社会福祉センターでのクラブ活動(合気道)見学(後列右から2番目が三木さん)

旭西浄化センターで研修中の高さん ▶



友好交流サロン

外国語講座は「ハングル講座 初・中級」、「中国語講座 初・中級」、「スペイン語講座 初・中級」、「シニア英会話教室」、「中国語会話実践講座」の8コースを設けています。外国人を対象とした「日本語教室」は、受講者のレベルに応じて、7～8グループの編成で実施され大好評でした。

また、「国際交流ふれあい講演会」は毎月1回（9月、10月を除く）開催しています。

(1) 国際交流ふれあい講演会

岡山市には、現在さまざまな国の人たちがさまざまな分野で国際交流に携わっています。そうした経験をお持ちの方に、外国についての興味深い講演をしていただきました。この講演会を通じて国際理解が深まったことと思います。



4月 ロバンディナ ナターリアさん
「私の育ったロシア」



5月 イトー エリオさん
「ブラジルの日系人」



6月 兒子 睦美さん、濱本 明子さん
和仁 久見子さん「你好(ニイハオ) -洛陽編-



7月 ヌルハヤティさん
「日本文化をインドネシアで」



熱心に聞く聴衆者



8月 パトリシアさん
「私の国ポーランド」



11月 ウスマヌ ファルさん
「セネガルって知ってますか？」



中国餃子に舌鼓を打つ聴衆者たち



12月 森 英志さん
「住んでみたアルゼンチン」



1月 崔 泰順さん
「岡山と朝鮮」



2月 ブルーン トクスさん
「モンゴルの遊牧民の生活と文化」



3月 アニタ チャイさん
「中国人としてカナダに住んで」

(2) 外国語講座と日本語教室

●ハンゲル講座●



初級
黄 義中先生



中級
崔 泰順先生

●中国語講座●



初級
鳥越 崇昌先生



中級
李 亦梅先生

●スペイン語講座●

初級
高原 和子先生



中級
フィデンスシア・
オルティス先生



●シニア英会話教室●



アニタ・
チャイ先生

●中国語会話実践講座●



李 炎先生 (左)



鄒 大崗先生 (右)

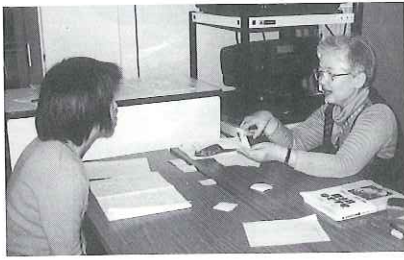


張 偉麗先生 (左)



祁 洁先生 (左)

●日本語教室●



小グループに分かれての会話中心のレッスンは、皆さんに好評です。

(3) ボランティア活躍記

「同じ高さのコミュニケーション」

房宗 尚子 (ボランティア通訳・翻訳登録者)

私が英語のボランティア通訳として登録したのは、様々な文化を持つ人々と実際に触れ合う機会を持ちたかったからです。

これまで、岡山を訪れる外国の方々との個人的に話す機会はありませんでしたが、ボランティア通訳として登録したことで、個人ではなかなか体験できないようなイベントに参加したり、会うことができないような方々と接する機会に恵まれました。

中でも印象的だったのは、スポーツイベントでお会いすることができた世界的なスポーツ選手たちです。女子マラソン大会では、岡山ではあまりお会いすることのない東欧の選手に同行し、普段は屈託のない笑顔で気さくに話し掛けてくる彼女たちが、レースに臨むときは真剣な表情へと変っていくのを間近に見ることができました。また、アクションスポーツパークのオープニングイベントでは、アメリカのトップアスリートたちと岡山の観光地を訪れました。彼らも、観光中はあどけない少年のような表情をのぞかせ、無邪気にふざけたりするのですが、いざ競技となるとその表情は一変します。スケートボードの選手が控室の前の廊下で入念にウォーミングアップをしていたときの真剣な表情が忘れられません。トップクラスのスポーツ選手たちは、本番の華やかさの影でこのような地道な努力を積んでいるのだと実感しました。

こうした経験を通して、あまり知らなかったスポーツに興味を持つようになっただけでなく、「外国の有名なスポーツ選手」だからといって、別世界の人々だと構えるのではなく、どんな人とも、人と人として同じ高さでコミュニケーションができることの素晴らしさがわかりました。

(真ん中が筆者)



「最初のコミュニケーションの大切さ」

片山 俊一 (ホームステイ・ホームビジット登録家庭)

私たち家族は、今まで二人のホームステイを体験しました。その時得た教訓や感想を皆さんにお伝えしたいと思います。

今年の夏、初めて中国人の費(フェイ)さんを迎えた時、兄の家族との食事会や温泉への小ドライブ、さらに鳥取への旅行など、予め沢山のプランを計画していました。それが歓迎になると信じていたのです。すると、費さんは1日目で体調を崩してしまったのです。1日休ませた後、最後の昼食と一緒に餃子を作って食べました。その時の会話が楽しかったのか、今でも彼とはe-mailをやりとりしています。沢山のプランを用意することより、しっかりコミュニケーションすることが本当の友好になることを痛感したホームステイでした。

2人目のアフリカからAMDAに来たオナニさんの時、まず彼とよく話す時間を取りました。すると彼は岡山の街を見物する時間がないことや母国が内陸のため、海を見たことがないと知りました。それで、「海を見に行こう」と渋川方面に向かうことに決めました。私達は海の水をなめて、「Salty」と騒ぎ合いました。楽しそうな彼の表情を見て、こちらも楽しくなりました。先入観を持たず、相手のことをよく理解してから行動する。それがホームステイ成功の秘訣だと考えるようになりました。

最後にもう一つ。オナニさんを含めた研修生たちのお別れパーティーに少しだけ出席した時、一部の外国人から「ホームステイの家族が来ていないので、別れを言えないのが淋しい」という声を聞きました。彼らの熱い想いに驚かされ、また、ホームステイの責任の重さを感じた一言でした。

マラウイから来たオナニさんと瀬戸大橋をバックに(右端が筆者)



(4) インターネットサービス提供事業

友好交流サロンで、無料でインターネットが閲覧できるサービスを始めました。インターネットで情報を得たり、メールのチェックが出来たりと、外国人市民にも好評です。



インターネットを利用して母国から情報を得るのに役立っています

～外国人のための生活情報誌～

(5) 「あくら」の発行

「あくら」は英語版、中国版、ハングル版、スペイン語版の4カ国語が隔月発行されている外国人向けの情報誌です。市民のボランティアの方が、月に1回編集会議を行い、記事の内容を決めて取材や編集を行っています。



記事について話し合うボランティア編集委員



4カ国語に翻訳されます



岡山市国際交流祭

岡山あいフェスティバル2001

第12回 岡山市国際交流祭「岡山あいフェスティバル2001」がグローバルビレッジを皮切りに今年も盛大に行われました。

(1) オープニング・グローバルビレッジ

日時：平成13年10月5・6日
場所：下石井公園・西川アイプラザ5Fホール



萩原市長のあいさつ



グローバルビレッジ開会式



オープニングの備中神楽

(2) 韓国舞踊公演 (ポドルフェ)

(平成13年10月5日)



韓国の伝統舞踊ポドルフェ

(3) 子供のための国際理解フォーラム

(平成13年10月6日)



講師の方々との対面

(4) ベット・ホーバー水彩画展

(平成13年10月30日～11月4日)



クレド岡山で開催されたベット・ホーバー水彩画展

(5) 外国人ホームステイと交流会

(平成13年11月24日～25日)



ホームステイ家族と外国人の対面式



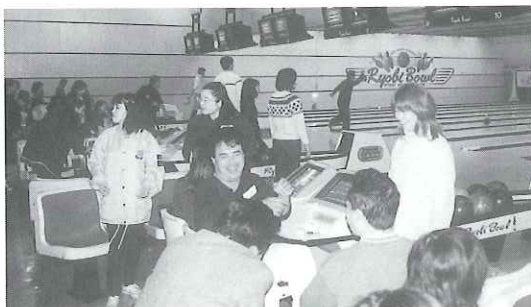
ベット・ホーバー女史主催のWelcome Reception



もちつきを楽しむ参加者

(6) 国際親善新春ボウリング大会

(平成14年1月13日)



日本人と外国人ペアで競いました

(7) ブルガリア子供絵画展

(平成14年1月18日～23日)



ブルガリアの子供の絵を鑑賞する岡山市の小学生

ふれあい

トピックス

●協議会会員と洛陽市技術研修生並びに国際交流員との懇談会 (平成13年4月24日)

岡山市国際交流協議会平成13年度理事会並びに総会を開催し、終了後、岡山理科大学で研修中の洛陽市技術研修生3名と韓国並びにカナダ出身の岡山市国際交流員2名との懇談会を行った。



総会で小坂会長より紹介される洛陽技術研修生と国際交流員

●洛陽市友好交流訪日団一行来岡 (平成13年10月19日～23日)

(平成13年10月19日～23日)

岡山市日中友好協会(会長:片岡和男氏)の招聘により、洛陽市外事弁公室方 双建副主任ら洛陽市友好交流訪日団一行3名が、岡山せとうちライオンズ15周年記念式典出席のため来岡された。



訪日団一行の市長表敬

●岡山大学とサンノゼ州立大学が学生相互派遣を開始 (平成13年7月17日)

(平成13年7月17日)

岡山大学とサンノゼ州立大学は平成11年5月に学生交流協定を締結しており、平成13年度から学生の相互派遣を開始した。

岡山大学から派遣される学生2名とサンノゼ州立大学からの受け入れ学生1名が岡山市長を表敬訪問した。



サンノゼ州立大学の学生が市長を表敬

●富川市青少年サッカー交流訪問団来岡 (平成13年11月19日～26日)

(平成13年11月19日～26日)

「韓国・富川市青少年サッカー交流訪問団」一行34名(団長:金宗孝、選手:高校生28名)が岡山理科大学附属高等学校のサッカーチームと交流試合を行うため来岡した。



富川市青少年サッカー交流訪問団の市長表敬

●富川市韓日親善協会訪問団来岡 (平成13年8月2日～6日)

(平成13年8月2日～6日)

富川市韓日親善協会訪問団(会長:李行渉氏)が岡山市を訪問し、「おかやま桃太郎まつり」の視察や民間交流を行った。



在日本大韓国民団岡山県地方本部を訪問



アクションスポーツパーク岡山を見学

ホットミニ情報

- ◆岡山市立旭東中学校サッカー部有志22名並びに指導者2名は前スポーツ国際交流員チャカロフ・アタナス氏と共にプロブディフ市を訪問。同市のクラブチームとサッカー交流試合を行うと共に、ホームステイ等を通じて交流を図った。(平成13年3月24日～4月3日)
- ◆洛陽市总工会友好訪日団一行7名が来岡。(平成13年4月5日)
- ◆岡山市立岡山後楽館高等学校と教育交流を行っている、米国・サンノゼ市のシルバー・クリーク・ハイスクールの生徒一行が来岡。(平成13年4月20日～24日)
- ◆洛陽市友好都市締結20周年記念岡山市友好訪中団の団員の方々が旅行中に撮影した写真を持ち寄っての写真交換会が開催された。(平成13年5月12日)
- ◆(株)機能性食品開発研究所(本社:岡山市)一行13名が洛陽市政府を訪問。(平成13年6月1日～10日)
- ◆「2001 Korea Week」(主催:韓国観光公社)が開催され、「韓国映画の夕べ」と韓国の四季と文化をパネルで紹介した「韓国観光パネル展示会」等が行われた。(平成13年6月1日～10日)
- ◆サンノゼ市高校選抜チームと岡山市高校選抜チームにより、岡山県立高松農業高校体育館に於いて、サンノゼ市対岡山市親善高校選抜レスリング大会が開催。(平成13年6月26日)
- ◆平成14年5月に富川市で行われる「ボックサゴル芸術祭」の中で開催される「富川市友好都市紹介展」の岡山市紹介コーナーに展示する写真を市民から募集。(平成13年12月17日～平成14年2月18日)
- ◆岡山サンホセ交流協会(会長:谷 義仁氏)は、写真や民芸品などによりサンホセ市を紹介するため、「姉妹縁組サンホセ市展」を「まちかど美術館サンホセ(岡山市駅元町)」で開催した。(平成14年1月23日～28日)
- ◆平成13年度の岡山市議会議員海外行政調査団(団長:宮川日吉議員)は、平成14年2月26日に岡山市と友好交流締結調印を行った富川市を表敬訪問した。(平成14年1月29日～2月7日)
- ◆岡山市内の小学6年生39名で構成された岡山市少年サッカー連盟一行44名(団長:浦門幸男氏)はプロブディフ市を訪問し、交流試合を行った。(平成14年3月19日～26日)

* 募 集 中 *

- ★ボランティア通訳・翻訳登録者
- ★ホームステイ・ホームビジット引受登録家庭
- ★外国人向け生活情報紙「あくら」編集ボランティア

岡山市国際交流協議会事務局

〒700-8544 岡山市大供1-1-1 岡山市役所国際課内
TEL:086-803-1112
FAX:086-225-5408
E-mail:kokusaika@city.okayama.okayama.jp
URL:<http://www.city.okayama.okayama.jp/shimin/kokusai/index.htm>

〒700-0903 岡山市幸町10-16 西川アイプラザ4階 友好交流サロン内
TEL:086-234-5882
FAX:086-234-5878
E-mail:oifa@po1.oninet.ne.jp